2015 年までの EFA 目標達成に向けて：フィリピンのシナリオ

キャロライン・ロドリゲス
東南アジア教育大臣機構
教育革新技術センター知識管理部部長

フィリピンにおける教育制度は初等教育、中等教育、高等教育もしくはそれ以上の 3 段階の連続した学校教育からなる。基礎教育（初等および中等）は教育省（Department of Education: DepED）が中心となって管理している。公立、私立両方の初等および中等学校は教育省が運営、指導、管理を行っている。

第一段階である初等教育は公立では 6 年制（1 年～ 6 年）、一部の私立では 7 年制の義務教育である。この段階は幼稚園等の就学前教育も含む。児童は 6 歳で 1 年生にならなければいけない。第二段階である中等教育（12 歳から 15 歳の児童）は 4 年制であり、初等教育を無事に修了した児童が進学する。

フィリピン EFA 2015 計画

フィリピン EFA 2015 計画とは、フィリピン国民すべてに対して基礎教育の質の向上を、2015 年までに達成するという展望であり総体的な改善プログラムである。フィリピン EFA 2015 計画の中核となる目標は全ての国民が基礎的能力を得るということであり、これにより機能的識字力が全員にもたらされることになる。全てのフィリピン人に基礎的能力を確実に持たせるということは、全フィリピン人に基礎学習のニーズを提供し、全フィリピン人が機能的識字者になれるようにするということである。これは個々人が人間らしく生活して働き、能力を生かし、重要な情報に基づいた決断を下し、かれらの環境やそれ以上の規模のコミュニティー（地域規模、地方規模、国家規模、地球規模）といった社会において、個人や社会の生活の質を高めるために効果的に機能するための認知的、感情的、行動的の全ての技能と能力を持つということである。

EFA の目標からどの程度の位置にいるか

2008 － 2009 年度の最新の教育データによると、就学するフィリピン人学齢児童（6-11 歳、約 1300 万人と推定）の約 85.1% の状態は以下の通りである。

- 1 年生として入学する標準的な 100 人（2008 － 2009 年度は 2,677,529 人）の中、60 人のみが体系的な幼児教育を受けている。約 40 人のみが入学すべき年齢である 6 歳である。他の約 60 人は 7 歳以上である。2008 － 2009 年度の真の入学率は 48.41% であり、我が国の 6 歳児の過半数（52%）は 1 年生として学校に在籍していないことがうかがえる。
- この 100 人の入学者のうち、13 人が 1 年次を修了しない。合計で 24 人が 4 年次までに学校を退学している。75 人が 6 年次まで進むが、73 人のみが 6 年次を修了できており、修了するまで平均で 7.3 年かかっている。
- 初等教育の平均パーセントスコアはたったの 65% である。英語は 61.5%、算数は 63.9%、理科は 57.9%

[1] 教育の質は全国学習到達度テスト（National Achievement Test: NAT）の結果を反映している。達成水準は平均パーセントスコアで 75% となる。

- 標準的な中等部への入学生 100 人（1,979,337 人）中、80 人は 4 年次まで進学するが、中等部を卒業するのは 75 人であり、修了するまで平均で 5.6 年かかっている。
- 中等教育修了者の平均パーセントスコアは合格点である 75% の半分にしか達していない。英語は 53.5%、数学は 42.9%、理科は 46.7% である。

である。

現状の重要課題

フィリピン EFA 委員会（National EFA Committee: NEC）は EFA の 2015 年達成に少しでも近づくため、多くの可能性の中から最も戦略的と思われる 9 つの課題を提案した。これらの 9 つの課題は大まかに 2 つのクラスに分類できる。6 つの「生産課題」が成功すれば、目標とされる教育成果を生み、また 3 つの「可能化課題」によって作り出された適切な基盤と支援環境は生産課題の効果的な実施を保つため必要となる。

6 つの生産課題とは

1. ***よりよい学校：持続的に成績の向上を全ての学校に続けさせる。*** それぞれの学校での成績を向上させることは、学校システムを総合した成績を向上させるであろうという合理的な予想の基、全国的な学校における成績を向上させることに焦点を合わせている。EFA の目標を達成し費用対効果の高い品質保証基準を作るため、各校がそれぞれの能力と成績を評価するための道具の開発、導入、伝播、採用が必要とされている。
2. ***ECCD：ECCD の拡張は EFA にとってさらにプラスとなる。*** フィリピンでは第 1 学年に入学する前に、何らかの形で幼児教育プログラムに参加していた児童の数は 2002（54%）から 2007（65%）と徐々に増えている。しかし、それでも 2005 年度は 65% と目標（67%）のは達成できず、2010 度目標の 100% からは程遠い。下院によって可決された第 5387 号法案と、上院によって可決された第 2542 号法案（基礎教育制度への幼児教育の組み込みおよびそれに関する予予算の配当に関する法案）は幼稚園を制度化し、すべての人に無料で提供することにより、5 歳すべてが幼児教育を受けることができるようにするのが目的である。
3. ***教員：全ての教員に常に指導方法を改善するようにさせる。*** これは基礎教育の結果を改善するための重要な因子は、指導方法を改善することであるという前提をサポートするものである。教師の習熟度と能力は、他の学習環境同様に学校においても生徒の成績を左右する大きな要因である。必要とされる対策は、教職につくことができる人々の質の高い指導を行う能力を高めることおよびより良い政策の作成、常に自分の指導方法を向上させられる教員を選択、雇用、配置するための基準と手順の作成である。
4. ***サイクルの長期化：基礎教育の 12 年化。*** 他のアジア諸国の 12 年間に対して、フィリピンの基礎教育期間はたったの 10 年間である。現在フィリピンのすべての子供達が受けるべきとされる 10 年間の基礎教育期間に、2 年を追加するための対策がとられるべきである。現在、初等教育を修了するのに平均 7.3 年、中等教育を修了するのに 5.6 年、合計で 12.9 年間かかることを考えれば、期間の長期化はフィリピンでは現実的だと考えられる。
5. ***カリキュラムの開発：新しい機能的識字能力に関するカリキュラム開発強化を継続する。*** 知識が広がり、社会による要求が変化し、実践される教育が進化し、人々の目標や希望がより高くなるにつれて、カリキュラムと指導は研究と開発を必要とし続ける。私学、非政府組織、教員訓練期間、プロの教育者達個人個人、教育学者、そしてメディア・広告・文化等の組織を基本教育に含むカリキュラム開発を行うため、組織的な参加の視野を広げる対策が必要である。
6. ***代替学習システム：代替学習システムに対する非公式および非公認の介入は EFA にとって益になる。*** 大人に対する識字プログラム（例：さらに上の読み書き能力を最も必要とする層に手を差し伸べ、さらに多くのこのような学習者を参加させる）は、もし現存する大人の問題に対応している社会経済プログラムに統合されれば、もっと効果的に行える可能性がある。費用効率の高い地域言語、フィリピン語、英

語における大人の機能的識字率を達成するための代替学習のオプションを定義し広め、また政府がこのような効率的な機能的識字能力を得るための代替学習オプションに資金を提供するための政策が必要である。

3 つの可能化課題とは

7. ***資金供給：国家規模での EFA 達成のための適正な公的資金の提供。*** 全地方において質の高い基礎教育の結果を得るため、最も費用効率の高い地方政策をサポートするために、基礎教育のための国と地方政府の資金を統合した新しい公的資金フレームワークを国が採択することが必要である。
8. ***管理：地方における EFA 目標達成するための地方を基盤とするグループのネットワークの構築。*** お互いの地方における EFA 目標の達成を推進、サポート、モニターする多部門グループのネットワークを構築することが必要である。組織されたコミュニティ基盤の EFA グループは、コミュニティにおける学校、メディア、地方政府、地方企業、地方文化・スポーツ、そしてその他の質の高い教育のためのリソースをサポートする強力な擁護者となりえる。
9. ***モニタリング：EFA 目標達成に向けた試みの進捗程度をモニターする。*** 試みは結果として報告されなければいけない。教育結果および指導と学習における試みの、信頼性の高く、科学的、客観的な計測は関係者すべてにとって重要である。国（およびコミュニティ）の注目を結果に集中させるため、行われた試みのレベルと進捗状態の充分な量の客観的な情報を確保することが必要である。

万人のための教育を達成するための共同行動

フィリピンにおいて、全世界的な基礎教育の達成への道は善意によってなりたっている。しかし、我々が理解しているようにそれだけでは充分ではない。過去より向上しようする意思は、善意の人それぞれが背負い、その人々は目標へと確実へ歩みを進めていかなければいけない。それには以下の様な行動が含まれるべきである。

- 司法、立法における国家レベルの政治リーダー。万人のための質の高い基礎教育の要求を適切に満たすため、効果的に利用できる限りある公共のリソースを効率的かつ公平に配分するため、国家財政において重要な決断を下す彼らの集団としての能力をコントロールしなければいけない。
- 学校を運営・管理する専門の教育者達は、多くのフィリピンの学校が教育に失敗しその結果として生徒達が学習に失敗しているという、厳しい現実に対峙しなければいけない。
- メディア、政府、ビジネス、学術研究、市民社会等で働く、最も高い教育を受けており、最も理論的な社会のリーダー達。フィリピン社会に蔓延しつつある無能力を、万人のための基礎教育により止めるようと社会全体が努力するように、共通しまとまった注目を得るため。
- コミュニティ・リーダー（政府の役人、ビジネス・リーダー、各分野におけるプロフェッショナル）。彼らの子供だけではなく、コミュニティのすべての人が、質の高い基礎教育を受けられるようにサポートやアクションを要求しなければいけない。
- 教育改革の推進者。目的の普遍性を保持し、明確な目標と戦略を持ち、万人のための基礎教育の質を高める過程を指示し、突き進まなければならない。

References:

Basic Education Information System (BEIS) Policy Notes, Research and Statistics Division, Philippine Department of Education (unpublished document), 2009.

Luz, Juan Miguel, *Philippine Basic Education Industry Profile (Powerpoint Presentation), National Institute for Policy Studies, 2003.*

Philippine Department of Education Website – www.deped.gov.ph

Research Studies Unit, SEAMEO INNOTECH, *Content and Structure of Basic Education in Southeast Asian Countries (unpublished document), 2008.*

The Philippine EFA 2015 Final Plan, Oct. 2005.

UNESCO EFA Development Index 2009, Overcoming Inequality: Why Governance Matters (EFA Global Monitoring Report), 2009.

第7回　国際教育協力日本フォーラム
－自立的教育開発に向けた国際協力－
ウ・タント国際会議場
国連大学
日本、東京
2010年2月3日

「2015年まで残り5年の課題－何を優先すべきか」
2015年までにEFAの目標を達成するために：フィリピンのシナリオ

キャロライン・ロドリゲス
東南アジア教育大臣機構　教育革新技術センター
（SEAMEO INNOTECH）

教育制度の全体像

- 基礎教育（教育省）
  - 6－7年間の初等教育
    (6-12歳）
  - 4年間の中等教育
    (13-16歳)
- 高等教育（高等教育委員会）
- 技術・職業教育（技術教育技能教育庁）

基礎教育部門

- 公立学校
  - 政府が41,388校を運営
    - 初等教育：36,759校
    - 中等教育：4,629 校
  - 17の地域、193の地区に約2,260の学校区
  - 約456,317人の教員（初等教育：337,082人、中等教育：119,235人）
- 私立学校
  - 初等教育：4,529校
  - 中等教育：3,261校

フィリピンEFA 2015 計画

万人のための基礎的能力 . . .

. . . 万人のための機能的識字

オールラウンドのスキルや能力を習得—認知、愛情、行動

- ❖ 人として生き、働く能力
- ❖ 能力を開発する
- ❖ 情報に基づき重要な決定をする
- ❖ 社会の中で効果的に機能する

初等教育における総就学率（GER）および純就学率（NER）
フィリピン

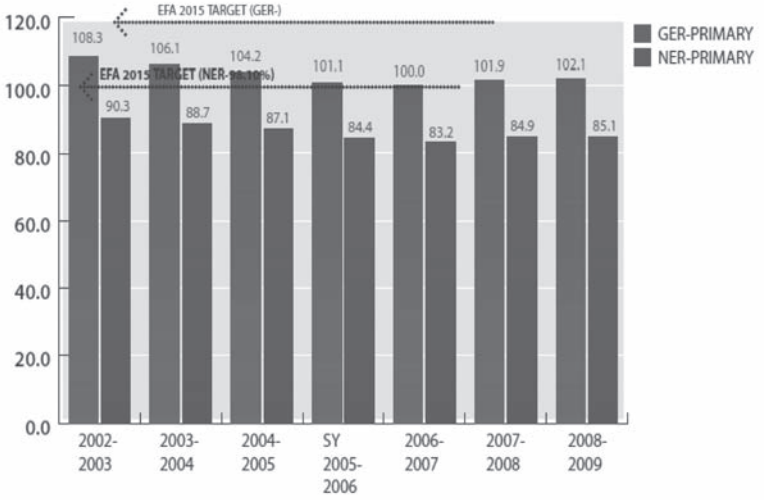
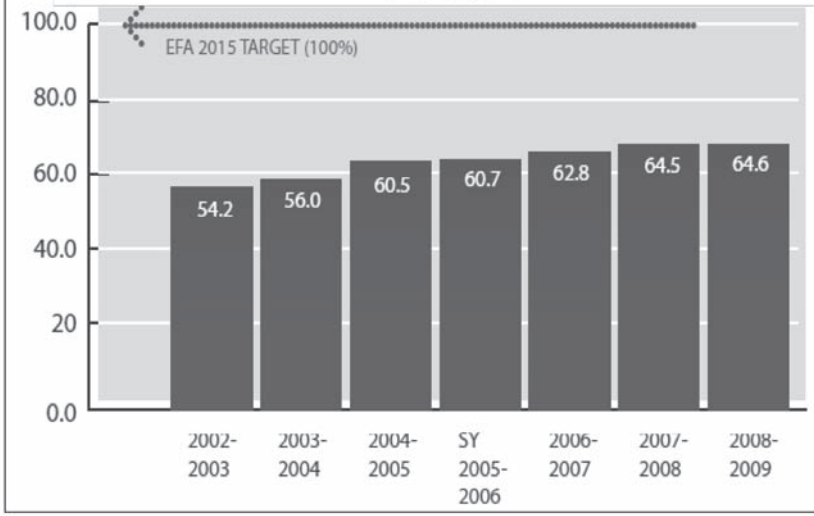
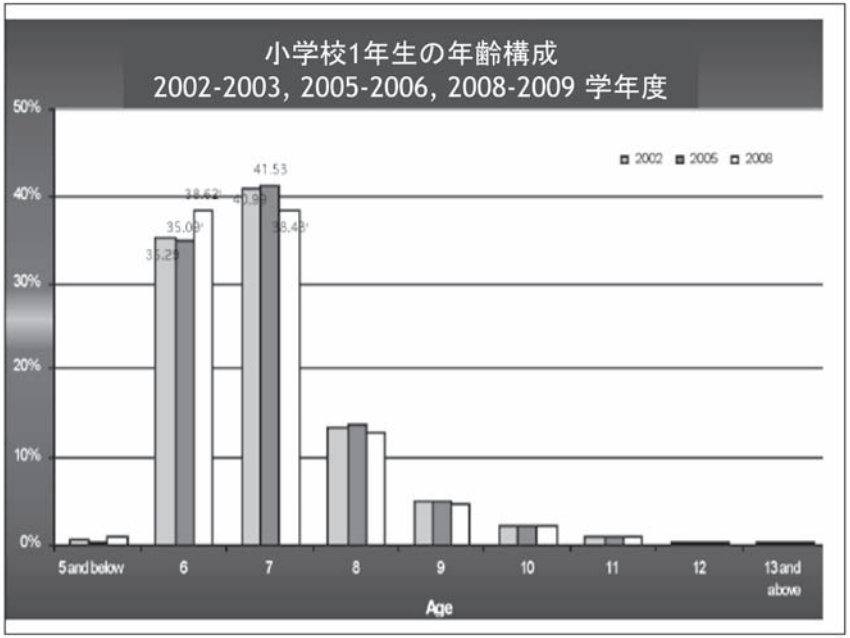


FIGURE 2 :Gross Enrolment Ratio and Net Enrolment Ratio in Primary Education (SY 2002-2003 to 2008-2009)

小学校１年生に入学した児童のうち
何らかの幼児教育を受けた児童の割合（%）
フィリピン



小学校1年生の年齢構成
2002-2003, 2005-2006, 2008-2009 学年度



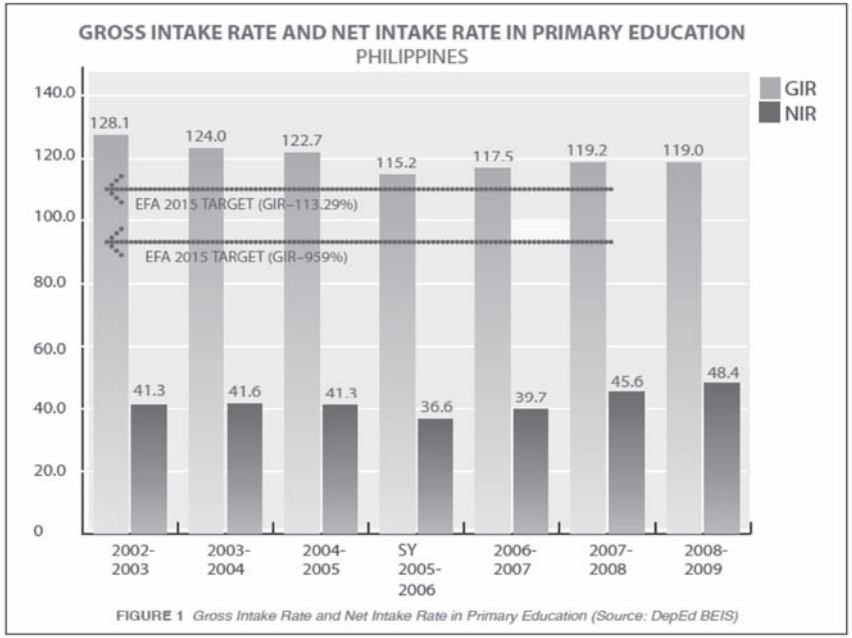
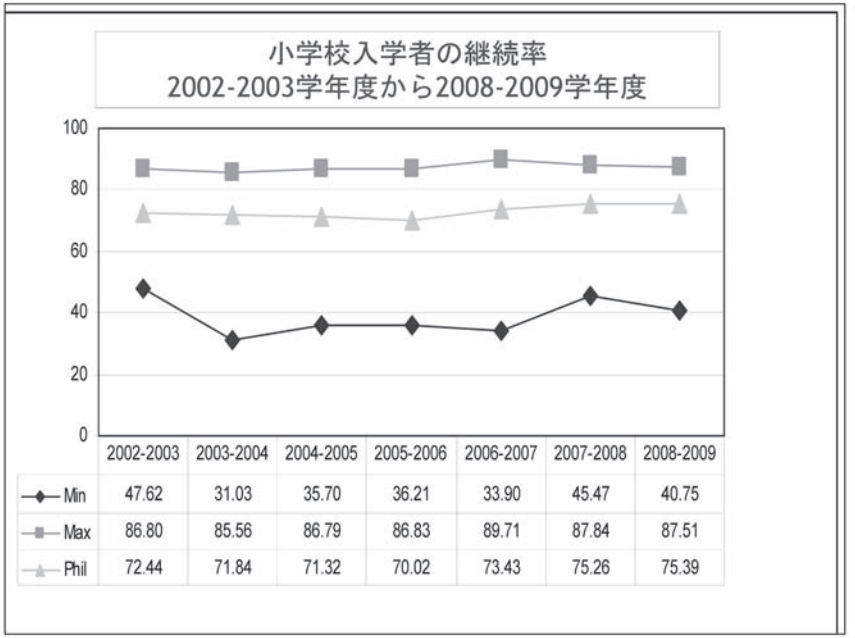


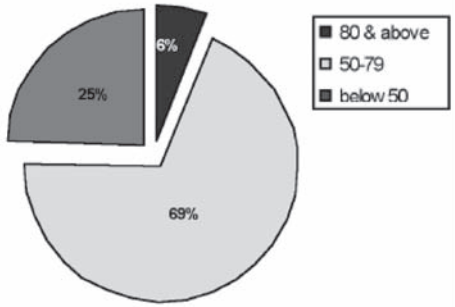
FIGURE 1 *Gross Intake Rate and Net Intake Rate in Primary Education (Source: DepEd BEIS)*

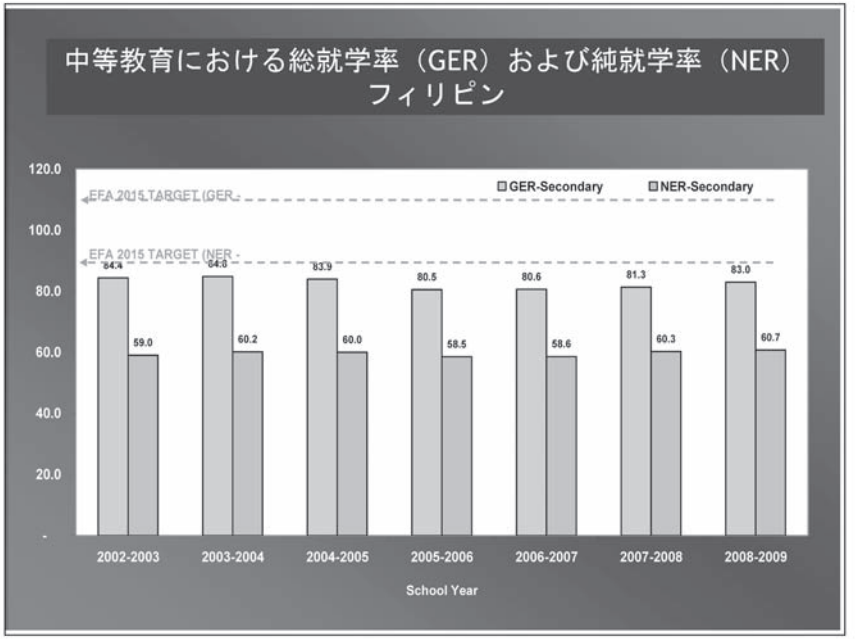


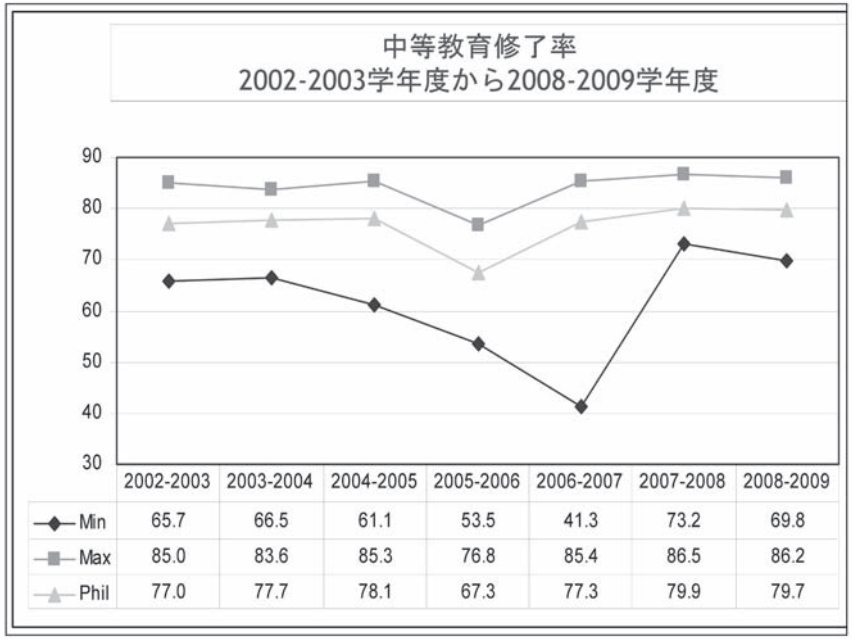
教育の質は全国学力テスト（NAT）の結果に反映される。
平均パーセントスコア（MPS）が75あれば、満足できる学力レベルといえる。

しかし小学校卒業生の平均パーセントスコア（MPS）は65しかない。

- 英語　61.6
- 数学　63.9
- 理科　57.9

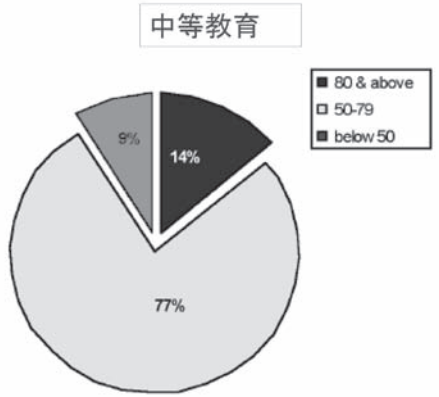


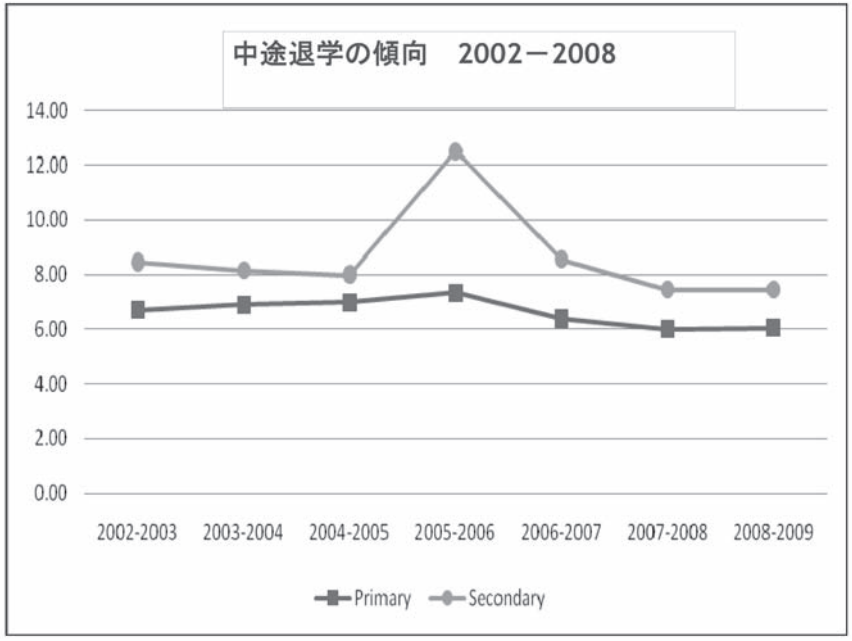




中等教育レベルの卒業生の平均パーセントスコア（MPS）は50しかなかった。

- 英語　53.5
- 数学　42.9
- 理科　46.7





直面する重要課題

- **成果を出すための6 つの課題**: 望ましい教育成果を出すための課題
  - よりよい学校
  - ECCDの拡大
  - 教育実習の改善
  - より長い基礎教育年数の採用
  - カリキュラムの充実
  - 代替学習制度

直面する重要課題

- **取り組みを継続するための3つの課題：前述の課題に、継続的かつ効果的に取り組めるように支援する環境を作る。**
  - 十分な公的資金の提供
  - 地域社会の集団間のネットワークづくり
  - EFA達成を目指した取り組みの進捗状況をモニターする

万人のための教育を達成するために、すべての人が力を合わせて行動する

- 国政の指導者は、公的な財源について思い切った決定をする。
- 教育者たちは、よりよい学校運営を目指す。
- 万人のための適切な基礎教育を目指して、官、学、民、市民団体、メディアの指導者が一致団結し、一貫した取り組みを実施する。
- 地域社会の指導者たちは、万人のための教育をめざして、支援と行動を要請する。
- 教育改革の提唱者は、よりよい「万人のための基礎教育」をめざすプロセスを推進する。

ありがとうございました